「すべての子どもにチャンスあげたい」

高崎で下村文科相

下村博文文部科学相の小中学校や高崎高校時代の同級生でつくる支援団体「群馬博友会」は23日、高崎市内で新春セミナーを開いた。下村氏が「これからの日本の教育の在り方」と題して講演し、「すべての子どもにチャレンジできるチャンスをあげたい」などと1時間にわたって熱弁を振るった。

旧倉渕村出身の下村氏が文科相就任後、古里での行事に参加するのは初めて。講演では自身が9歳の時に父を亡くし、「卵1個のおかずを兄弟3人で分ける」という家庭環境の中、奨学金を受けて高校、大学に通ったことに触れ、「現在は奨学金の希望者が多くて借りるのが大変。経済格差が学力格差につながっている」と問題提起。大臣として解決に取り組むことを誓った。

日本の大学入試が学力重視であることについては、「社会で必要なのは人間力。生徒会や部活動のリーダーとして活躍したとか、ボランティア活動に取り組んだとかが評価基準になるべきだ」と訴えた。

いじめや体罰の事例が相次いで表面化していることについては「教育委員会を抜本的に見直す」「いじめの加害者も傍観者も許さない」と持論を述べた。

会場には同窓生に加え、支援者や県内の首長、議員ら約300人が集まった。

今後の日本の教育の在り方について講演する下村文部科学相